

角 玄一郎 氏 学位審査結果の要旨

主査：中邨 智之

副査：松田 博子、伊藤 誠二

芍薬甘草湯は、こむら返りや尿管結石の疝痛などの骨格筋・平滑筋の痙攣性疼痛に効果を示す漢方薬である。本研究では、芍薬甘草湯を切迫早産などにおける子宮収縮抑制薬として用いることについての妥当性とその作用機序について、ヒトおよびラットの妊娠後期子宮筋組織片を用いて検討した。オキシトシンならびにプロスタグランジン F2 α による収縮刺激に対して、芍薬ではなく甘草が収縮抑制作用を示した。甘草の主要な薬効成分とされるグリチルリチンには収縮抑制作用はなかったが、その代謝産物であるグリチルレチン酸には収縮抑制作用を認めた。甘草による収縮抑制はグリチルレチン酸によるものよりも速く、また甘草はグリチルレチン酸を含まないとされることから、甘草による子宮筋収縮抑制作用は未知の薬効成分によるものと考えられた。甘草によってラット子宮筋には一時的な収縮増強がおこったがヒト子宮筋では収縮抑制のみを認め、臨床使用における安全性が示唆された。本研究は、芍薬甘草湯の子宮筋への作用メカニズムの一端を明らかにしたものであり、学位に値する。